産業技術環境局　地球環境連携室
03-3501-1757

CO2貯留適地の調査事業

平成30年度予算額 5.5億円（5.5億円）

事業の内容

事業目的・概要

- 二酸化炭素回収・貯留(CCS)技術はCO2排出削減ポテンシャルが高く、地球温暖化対策の重要な選択肢の一つとして、平成32年頃の実用化が期待されています。
- 国内には約1,460億トンのCO2貯留ポテンシャルがあると推定されていますが、不十分な基礎データに基づく推定であり、個々の候補地点の貯留ポテンシャルには大きな不確実性があります。
- このため、大きな貯留ポテンシャルを有すると期待される貯留地点において、弾性波探査※１やボーリング調査※２等を行い、貯留層のポテンシャル評価を実施します。
- なお、本事業は、経済産業省と環境省の連携事業であり、両省共同で事業を実施します。

※１弾性波探査とは、人工的に強い振動を発生させ、地下を伝わる振動の変化を観測することで、地下の構造を把握する作業。
※２ボーリング調査とは、実際に地下を掘削し、土や岩のサンプルを分析することで、地下の構造を把握する作業。

成果目標

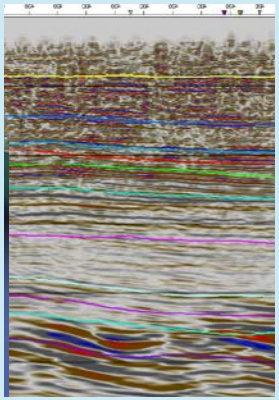
- 平成26年度から平成33年度までの8年間の事業であり、本事業を通じて、CO2を貯留可能な地点を3ヶ所程度選定することを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

国 → 委託 → 民間企業等

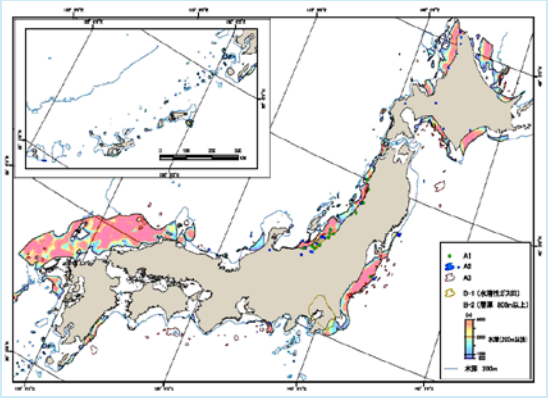
事業イメージ

海底下地層の弾性波探査



弾性波探査による地層断面図

ボーリング調査



全国貯留層賦存量調査（2005, RITE）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
弾性波探査	←				→			
調査井掘削						←		→
貯留層総合評価						←		→